



教頭 南部 博

「定時制最後の年を迎えて」

定時制は本年度末をもつて、二十二年にわたる歴史の幕を閉じることになります。地場産業とともに、一宮市では唯一の働きながら学ぶ星間二交代制の県立学校であった本校も、歴史の流れには抗しきれず、ここに輝やかしい足跡を残しつつついに姿を消すことになるのです。

西高の名物が、特色がなくなる寂しさは、内にいますものよりも、外におられる方々に卒業された同窓生、本校を去られた職員の方々にこそ、一層深い思いのあることと察します。

振り返れば、星間二交代制(家政科二クラス)が併置されたのは、一宮高校西分校の創設二年目の昭和四〇年四月のことでした。以来四年には独立校となり、四八年には新たに普通科二クラスが増設され、五六六年までつづきました。

しかし五七年に家政科が、五八年をもつて普通科が募集を停止されたのです。そ

星間の多い事業所と県名及び本校と関係した年数

会社名	卒業者数	関係年数	都道府県名	卒業者数	関係年数
1 日本毛織一宮工場	279	20	長崎	240	22
2 敷島紡績江南工場	203	15	鹿児島	171	21
3 日本毛織豊富工場	194	15	北海道	156	21
4 倉敷紡績木曽川工場	159	17	新潟	125	21
5 東海紡績	66	14	青森	110	22
6 鐘 紡	46	9	佐賀	87	19
7 橋本毛織	38	12	愛知	82	21
8 中和羊毛	34	13	岩手	66	17
9 東海レーヨン	33	8	宮崎	60	21
10 サンハウス	25	10	熊本	57	22

な中で、クラス単位ではなく学年単位で生徒一丸となっています。

スタート当初に思いを馳せつつ、職員、幹事の浅野良二君と同窓会事務局の私が清澄君。昨年八月の同窓会総会の席での話です。たまたま同席していた学年常任幹事の浅野良二君と同窓会事務局の私がこれに同調し、さらに岩田均君、岡崎誠廣君、馬場豊君を有志に加え、いよいよ話が具体化していくことになりました。

われわれは期日を一月五日と決め、恩師の先生方ならびに同期生に案内を出したところ、意外に大きな反響をよびました。

わけても十四名の恩師の方々のうち、学年主任だった後藤幸男先生はじめ、戸田元照先生、松浦達雄先生、南部博先生、天野郁夫先生、林熙崇先生、竹山(旧姓大橋)一江先生、猪野(旧姓鶴飼)滝代先生にご出席いただいたことは、われわれ有志にとっては望外の喜びであります。

た。当日は、これら八名の先生方のほか有志を含めて六十二名の同期生が「江美」の教室に集い、開会以前から会場は熱気であります。記念撮影後は会食に移りました。

各テーブルでは久しぶりに会う先生や旧友との間で話がはずみ、時の経つのも忘

り、学生時代の面影を見出すのもむずかしくなりましたが、それにひきかえ先生の体質改善の努力が急速に行われ、大変な効果があつたこと、三、機械産業の導入に

新鋭機械、コンピューターの導入に

より労働力の省力化が促進されたこと、四、機械産業の製品の供給過剰、開発途上国への追上げ、流通過程の複雑化等による機械産業の体質改善が進行したことなどが挙げられます。このように見てきましたと、本校定時制の歩みは、まさにそのまま日本社会の変化を浮き彫りにした歴史を秘めているとさえいえそうです。

残された一年、有終の美を飾るべく、

スタート当初に思いを馳せつつ、職員、

幹事の浅野良二君と同窓会事務局の私が

清澄君。昨年八月の同窓会総会の席での

話です。たまたま同席していた学年常任

幹事の浅野良二君と同窓会事務局の私が

これに同調し、さらに岩田均君、岡崎誠

廣君、馬場豊君を有志に加え、いよいよ

話が具体化していくことになりました。

われわれは期日を一月五日と決め、恩師

の先生方ならびに同期生に案内を出した

ところ、意外に大きな反響をよびました。

わけても十四名の恩師の方々のうち、学

年主任だった後藤幸男先生はじめ、戸

田元照先生、松浦達雄先生、南部博先生、

天野郁夫先生、林熙崇先生、竹山(旧姓

大橋)一江先生、猪野(旧姓鶴飼)滝代

先生にご出席いただいたことは、われわ

われ有志にとっては望外の喜びであります。

た。当日は、これら八名の先生方のほか

有志を含めて六十二名の同期生が「江美」

の教室に集い、開会以前から会場は熱気

であります。記念撮影後は会食に移りました。

各テーブルでは久しぶりに会う先生や旧

友との間で話がはずみ、時の経つのも忘

り、学生時代の面影を見出すのもむずか

しくなりましたが、それにひきかえ先生

の活躍が期

してきましたが、それにひきかえ先生

の活躍が期

してきましたが、それにひきかえ先生